

教育・研究などへの取組状況(令和5年度)

総合工学システム学科	系・コース
	一般科目系
職階	氏名
教授	川村珠巨

項目	取組状況
教 育	<p><u>担当科目</u> 英語3、4(2年) 英語表現3(3年) 英語演習 B(5年)</p> <p><u>担当科目の取り組み状況(工夫・改善した点)</u> 英語3、4はリーディングを主とした総合演習であるが、文法項目を意識しながら英文の内容を掴めるようにターゲットになる文法演習をした上で読解に取り組んだ。身近な例文を使つての演習がわかりやすく、実践で使えそうと好評であった。 英語表現3は200 words程度のプレゼンテーションができることをゴールに設定し、外国人英語講師と共に、できるだけ英語を使う機会を多くする工夫をした。 英語演習Bは、5年生が対象であるため、日本の企業が世界で活躍するためにとった戦略を紹介しているテキストを使用した。卒業後、英文を読んでその内容をプレゼンすることを想定し、テキスト中にある15社がとった戦略を紹介することを授業の軸にした。プレゼンの機会が多かったこと、クラスメートのプレゼン(資料、発表態度)を見ることによって自身のプレゼンが改善できたと好評であった。 授業評価アンケートはいずれの科目においても「説明が丁寧」「質問しやすい」とのコメントがあり、この姿勢は今後も貫きたい。一方で、わかっているところの説明が長いという意見もあり、教材研究とあわせてニーズ分析をした上で授業に臨みたいと思う。</p>
研 究	<p><u>研究テーマ</u> 国際交流の在り方(内容、実務等)について、高専国際交流担当者間で、情報共有を始めたところである。今後の対策を講じながら、グローバルエンジニア育成のために学校として、英語科教員として取り組めることを探していきたい。</p>
社会貢献	<p><u>学協会活動</u> 全国高等専門学校英語教育学会会員 中国地区英語教育学会会員 実用英語技能検定面接員</p>

教育・研究などへの取組状況(令和4年度)

総合工学システム学科	系・コース
	一般科目系
職階	氏名
教授	川村珠巨

項目	取組状況
教 育	<p><u>担当科目</u> 英語1、2(1年) 英語IV(4年) 英語応用演習 II(専攻科2年)</p> <p><u>担当科目の取り組み状況(工夫・改善した点)</u> 英語1、2は、音読の提出をオンライン上で課した。人の前で英語を流ちょうに話すことに抵抗がある、緊張する学生にとっては効果的だったようだ。また回を重ねるごとに、前回指摘した発音や、イントネーションが改善され、その成果も確認できた。</p> <p>英語IVは「囲碁の世界における AI」「次世代の地熱発電」など身近な科学の話題を集めた教材を選んだ。内容的にも英文的にもやや難しいものが多かったため、読解のための補助教材を作成した。(後日談だが、東京大学の編入試験問題に類似した内容が出題された。過去問を解いていた東大受験希望者はこのテキストレベルの英文をしっかりと読もうと英語の取組みの際の指針がたてられたようだが、編入希望ではない学生にとっては難解な教材だったかもしれない)</p> <p>英語応用演習 II は、英語での学会発表やポスター発表を意識して、授業を設計した。音読指導は1年時引き続き、オンラインで実施した。英語で発表する機会が多かった点について好意的なコメントが多数あった。</p> <p>受講者の一人が、近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストに出場を希望し、原稿作成、音読指導、発表練習を授業時間外に4か月にわたって実施した。</p>
研 究	<p><u>研究テーマ</u> コミュニケーション方略(CS)の授業での扱い方(実践事例を収集し、特にCSが使える科目担当時に実践してみたい。今年度は該当科目なし)</p>
社会貢献	<p><u>学協会活動</u> 全国高等専門学校英語教育学会会員 中国地区英語教育学会会員 実用英語技能検定面接員</p>

教育・研究などへの取組状況(令和3年度)

総合工学システム学科	系・コース
	一般科目系
職階	氏名
教授	川村珠巨

項目	取組状況
教 育	<p><u>担当科目</u> 英語表現Ⅱ(2年) 英語表現Ⅲ(3年) 英語応用演習Ⅰ(専攻科1年)</p> <p><u>担当科目の取り組み状況(工夫・改善した点)</u> 英語表現Ⅱは、既習の文法項目の復習とその内容をふまえて短文を生成できるようになることを、英語表現Ⅲは、生成する英文をパラグラフ程度の長さに増やし、それを発表することを目指す科目である。英文生成の基本となるルール(文法項目)の定着を図るため、毎時間理解度確認のための小テストを実施した。英語を使うためには、最低限の語彙・構文暗記の必要性は理解できたのではないかと思う。</p> <p>英語応用演習Ⅰは、テキストにAFP通信社のニュース原稿を選んだが、その多くがインタビュー記事であったため、聞き取るのも(ネイティブスピーカーのノーマルスピードかつ口語表現も多用)、英文を理解するのも難しかった。そのため、毎時間補助教材(プリント)を作成し、そのプリントの解答提示においては、学生のものを模範解答として利用した。英文講読と並行して、専攻科2年時には5分程度のプレゼンテーションができるようになることをゴールに設定しているため、1年時はオススメの便利グッズ、旅程を検討しながら(安く行く? 贅沢する?)行きたい国の紹介、グループで社会問題に関するテーマを扱うプレゼンを課した。</p>
研 究	<p><u>研究テーマ</u> 児童英語における「ものづくり」の英語表現、簡単な英語で説明をしながら作れる「モノ」文献・実施事例調査</p>
社会貢献	<p><u>学協会活動</u> 全国高等専門学校英語教育学会会員 近畿地区高等専門学校プレゼンテーションコンテスト実行委員長 中国地区英語教育学会会員 実用英語技能検定面接員 公開講座にて地域の子どもたちに「えいごでつくる」を実施する予定であったが、コロナ禍、急遽中止となった。</p>